

# 心 理 劇

THE JAPANESE JOURNAL OF PSYCHODRAMA

第 18 卷 第 1 号 / 平成 25 年 12 月 1 日 Vol. 18, No. 1, December 2013

## 巻頭言

心理劇研究のすすめ……………伊東 正裕… 1

## 特集<科学としての心理劇>

特集(科学としての心理劇)にあたって……………川幡 政道… 5

科学としての心理劇—病院臨床における実践と研究から……………茨木 博子… 9

行為科学としての心理劇……………吉川 晴美…19

## 実践報告

サイコドラマにおける主役準備性の規定要因……………谷井 淳一…25

アルコール依存症者に対するソシオドラマとサイコドラマの意義……………古賀 聡…47

ロールトレーニングにおけるスカルプチャーの効用……………中込ひろみ…61

## 書 評

『サイコドラマの技法—基礎・理論・実践』(高良聖著) ……春原 由紀…75

『グループ活動を始める時に一つなかりを育む 50 のかかわり技法』(土屋明美監修) ……小笠原美江…76

## 情 報

第 30 回日本集団精神療法学会に参加して……………野畑 隆子…77

## 会 報

……………79

# *THE JAPANESE JOURNAL OF PSYCHODRAMA*

Vol.18, No.1 / December 2013

---

## CONTENTS

### Remarks

Introductory Remarks.....Masahiro Ito... 1

### Remarks on Special Articles : Psychodrama as science

On the special articles.....Masamichi Kawahata... 5

Psychodrama as science : clinical practice and study .....Hiroko Ibaragi... 9

Psychodrama as science of action.....Harumi Yoshikawa...19

### Practice Studies

Regulatory factors for readiness of the protagonist in psychodrama.....Junichi Tanii...25

Sociodrama and psychodrama for an alcoholic patient.....Satoshi Koga...47

The effects of sculptures in role training.....Hiromi Nakagomi...61

Book Review.....75

Information.....76

Announcement.....77

---

Edited and Published by

**Japan Psychodrama Association**

(A-606,1-1 Ogura, Saiwai-ku, Kawasaki, Kanagawa 212-0054, Japan)

President : Kiyoshi Takara (Meiji University)

Editor : Masamichi Kawahata (Yokohama City University)

Editorial Committee : Hiroko Ibaragi (Komazawa University) , Masahiro Ito (Niigata University of Health and Welfare) , Susumu Harizuka (Nakamura Gakuen University) , Yasuko Muto (Yokohama National University) , Yoshie ogasawara (Psychotherapy Office TMS) , Munetsugu Todo (Yamazaki Mental Hospital) , Harumi Yoshikawa (Tokyo Kasei Gakuin University)

## 執筆要項

1. 論文の内容は未公開のものに限る。事例提示の場合は、記載する情報は必要最小限とし、プライバシーに十分配慮すること。
2. 論文の長さは、原則として原著・総説・事例研究・実践報告は図、表、写真を含めてA4判(40字×40行)用紙11枚、短報・資料・その他は8枚を上限とする。上限を超えても掲載が認められることがあるが、その場合は原則として超過分の制作費は投稿者の負担とする。
3. 原稿は横書きで、原則として常用漢字・現代かなづかいを用い、数字は算用数字を用いること。図、表、写真は必要最小限にして別紙に書き、本文中にその挿入箇所を明示すること。本文にはページ数をつけること。
4. すべての投稿論文には、表題、著者名、所属機関名、論文の種別、連絡先住所、電話番号、Eメールアドレスを記載し、かつ表題、著者名、所属機関名については英語表記を添え、本文に添付する。原著および事例研究には、英文要約を必須とする。英文要約は100~200語で作成し、5項目以内のキー・ワードをつけること。英文要約およびキー・ワードについては日本語訳を添えること。英文は英語の専門家の校閲を経ていること。
5. 外国人名、地名に原語を用いる以外には、記述中の外国語になるべく訳語をつけること。
6. 引用文献は本文の最後に著者名のアルファベット順に一括して記載し、本文中では、著者名(発行年)で引用すること。
  - a) 文献の記述形式は、雑誌の場合は、著者名、公刊年度(西暦)、論題、誌名、巻(ゴチック)、号、記載頁の順序による。単行本の場合は、著者名、発行年度(西暦)、書名、発行所の順とする。ただし編者と担当執筆者の異なる単行本の場合は、該当執筆者名を筆頭にあげ、以下発行年度、編者名、書名、発行所の順とする。
  - b) 同一著者で2種以上の文献がある場合には発行年度順とし、さらに同年度に同一人の2種以上の文献がある場合には1990a、1990bのように区別して記載すること。
7. 校正は、初校を著者、再校以降は編集委員会で行う。
8. 投稿論文については、執筆者に別刷り20部を贈呈する。それ以上は執筆者の負担とする。
9. 本誌に掲載された論文の原稿は、原則として返還しない。
10. 投稿に際しては、投稿原稿とは別に、著者名、所属機関名、謝辞を削除したコピー2部を添え、書留郵便(レターパック可)にて送付すること。郵送とは別に、投稿原稿をEメールの添付ファイルとして送ること。

## 編集委員

委員長：川幡 政道

委員：伊東 正裕 茨木 博子 小笠原 美江 針塚 進 藤堂 宗継  
武藤 安子 吉川 晴美

## 編集規定

1. 本誌は日本心理劇学会の機関誌として年1巻発行する。
2. 本誌は、原則として本学会会員の心理劇に関する論文の発表にあてる。  
ただし、非会員からの投稿論文で本学会に寄与するものは、掲載が認められることもある。
3. 本誌には、特集、原著、総説、事例研究、実践報告、短報、資料のほか書評、海外文献紹介、情報、会報などの欄をもうける。
4. 特集、書評欄は、原則として編集委員会の指定した依頼原稿によって構成する。
5. 原著論文は、心理劇あるいはその関連領域における未公刊の独自性ある論文で、学術的考察のなされているものとする。
6. 総説は、心理劇あるいはその関連領域における特定の主題についての学問的動向を見渡し、著者独自の論考がなされている論文とする。
7. 事例研究は、心理劇あるいはその関連領域の臨床・実践活動における事例について考察のなされている論文とする。
8. 実践報告は、心理劇あるいはその関連領域の臨床・実践活動で得た知識、経験、成果などを報告する論文とする。
9. 短報は、心理劇あるいはその関連領域における萌芽的研究で、今後発展が期待できる研究を手短にまとめたものとする。
10. 資料は、心理劇あるいはその関連領域における掲載する意義があると考えられる実践、調査、事例、理論等に関するレポートとする。
11. その他必要に応じ、編集委員会での検討により論文の種類を新たに設定することがある。
12. 投稿論文は編集委員会によって審査され、その掲載の可否が決定される。  
なお、編集委員会は、会員もしくは会員外に審査協力を依頼することがある。
13. 本誌の編集は、編集委員会の責任のもとに行われる。
14. 原稿の印刷に特に費用を要するものは、執筆者の負担とする。
15. 本誌に掲載された論文を無断で複製および転載することを禁ずる。

---

心 理 劇 第18巻 第1号 編集 日本心理劇学会編集委員会

2013 (平成 25) 年 12 月 1 日発行 発行 日本心理劇学会

〒 212-0054 神奈川県川崎市幸区小倉 1-1 A-606

E-mail psy5role@yahoo.co.jp

FAX 044-511-5261

製作 社団法人やどかりの里

やどかり印刷

〒 337-0026 さいたま市見沼区染谷 1177-4

---